

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN が設立されてから今月で丸二年を迎えることができました。引き続き今後 2 年間は、JRRN が「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の事務局も担うことから、10 月は、11 月前半に中国・北京で開催される「ARRN 主催 第 5 回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」の準備を中心に、ARRN 参加者である中国や韓国関係者との調整に奮闘しました。

JRRN は、日本で蓄積された様々な技術・情報や素晴らしい取組みをアジアに向けて積極的に発信するとともに、アジアでの交流成果を日本国内の河川環境改善に関する全ての方々に還元し、様々な活動のサポート役を担えればと考えています。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

活動報告

「ARRN 主催 第 5 回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」開催案内(中国・北京)

2008 年 11 月 4 日 (火)、中国・北京の清華大学を会場に、ARRN 主催「第 5 回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」が開催されます。

(詳細は「会議・イベント等 (2008 年 11 月)」参照)

過去 4 回の本フォーラムは全て東京で開催されました。今回は、今後の ARRN の発展に向け、より積極的にアジアでの ARRN の知名度向上を図ることを目的に、初の国外での開催となります。

また、「第 4 回アジア太平洋水文水資源協会」の特別セッションとして開催されるため、国際会議を目的に集まったアジア各国の専門家の方々に ARRN や

その国内活動の JRRN について宣伝する機会となります。

第 5 回国際フォーラムの開催報告は、JRRN Newsletter vol.18 (2008 年 11 月号) にて詳しくご紹介させていただきます。

- 開催チラシは以下の URL より入手可能です。
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/01-0082.pdf>
- 第 4 回アジア太平洋水文水資源協会 URL
<http://www.4thaphw.org/>

(JRRN 事務局 和田彰)

寄稿記事

中国都市河川考察 ～北護城河(北京市)を訪ねて～

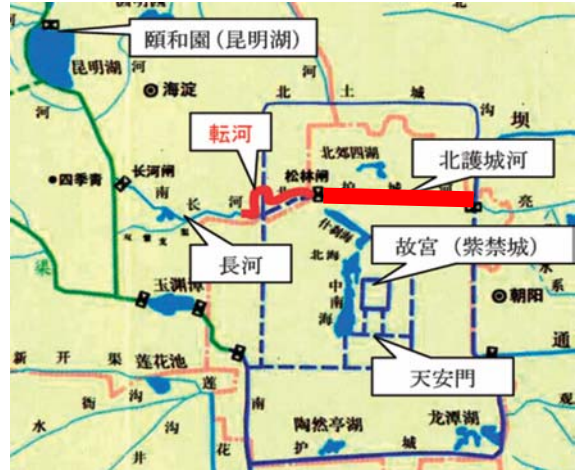
寄稿者：伊藤 将文（JRRN 事務局・財団法人リバーフロント整備センター研究第4部）

平成20年9月中旬にARRNの用務にて北京オリンピックの夏冷めやらぬ北京市を訪れた。平成18年以来、二度目の訪中となる今回、用務の合間の半日あまりの時間で、北京市内の水辺調査を行った。そのわずかな調査において『見せる水辺』の整備が充実している印象を受けた。

筆者の主観で筆を進めるが、ここでいう『見せる水辺』とは、生物環境や親水性に重点をおいた整備とは異なり、散策、水辺景観に特化した水辺と解釈いただきたい。日本でも都市域の河川で多く見られるもので、桜並木で有名な目黒川、首都圏を貫流する隅田川、博多の那珂川等を例として挙げればイメージを共有できるものと思う。

今回北京市内で訪れた転河の下流の北護城河の整備状況等を紹介しながら、『見せる水辺』について考察を述べる。

そもそも転河も、中国で知られた大河川事業であり、その工事総投資額はおよそ6.26億人民元（日本円でおおよそ90億円）である。転河については既に多くの文章があり、詳細な情報についてはそちらをご参考いただきたい。



地図 北護城河位置図

転河の下流に位置する北護城河は、安定門東大街に沿って東西に流れる。その北護城河は北京市局による水辺整備が行われた箇所、水辺整備内容は大きく自然的河岸と護岸の区画に分けられる。自然的景観及び護岸区画が交互に整備されており、いずれの区間を通じても片岸ないしは兩岸に散策路が整備されており、いわば都市河川公園のような様相であった。

また、自然的水際と護岸区間の境界は写真のように護岸区画の高水敷を水面に徐々に切り下げることで、自然的護岸のもつ水面と陸域の連続性を整えていた。



写真 自然的水際区間と護岸区間の境界の様子

日常的な管理においては、水面には、一定区間毎にフェンスが張られ、ゴミの流下を不正でいるほか、筆者が現地を訪れた際にも複数の清掃員が水面上の落葉等の浮遊ゴミを除去する光景が見られた。



写真 河川清掃員

北京支局の努力により北京市内はもとより水際の清掃も徹底しており、この北護城河に関しては極めてゴミ、廃棄物等の見られない公園的な景観であった。しかしながら、釣り、遊泳、スケート（冬季に水面が凍結した際）を禁ずる看板表示が多くあるにも関わらず、釣り人の姿が多く見られた。近年日本の河川においてもゴルフの練習等、管理者の意向床となる利用を行う人が話題となっているが、中国、少なくとも当河川も、類似した状況が伺える。

また、河川両岸には植栽が施され、自然的水際区間及び護岸区間ともにシナダレヤナギが水際を彩っていた。そのような景観整備を行うにあたり、河川区間の幅が不足している箇所においては、水際散策路の整備を行わず、基礎ブロックによる植栽を行う箇所も随所に見られた。



写真 北護城河の植栽の様子

この様に都市河川公園的な整備を行い、水辺景観の改善を徹底して行っている北護城河ではあったが、景観を整備する上で幾つか気になった点を以下に挙げる。

1 つは、河川区域内の照明等のための電気設備が露出していることが挙げられる。植栽で隠す等の工夫で植生の緑で彩られた景観の中に白い物体が露出する事を防げるのではないかと感じた。



写真 むき出しの電気系統

2 つ目として、水際の散策路とは別に、道路脇の歩道が整備されているが、歩道部に設けられた植栽部が歩行の邪魔となり、市民は歩道を歩かず、車道を歩行する状態であったこと。

最後に3 つ目として、河川沿いの駐車車両の多さが挙げられる。河川景観を整備しながら現在の駐車状況では、車体が視界を遮るため車道や沿川住宅等から河川景観を楽しむことが難しいと思われる。



写真 河川沿いの歩道の状況



写真 河川沿いに駐車し、視界を妨げる車両



写真 北護城河で釣りする人々



写真 河岸散策路で麻雀に興じる人々

行政機関による清掃活動等が徹底している北護城河ではあるが、今後市民が河川を地域の環境の財産と意識の中で位置づけ、市局とともにルールを定めマナーを培っていくことが重要となる。その中で、例えば釣り堀的な利用に対しても行政機関と市民との利用ルールが作られるのではないかと考えられる。

しかしながら、護岸部のフェンス、橋梁デザイン等随所に見られ、都市の河川公園としての整備という観点からは中国的な非常に徹底した整備が行われていると感じた。

会議・イベント等 (2008 年 11 月～)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ ARRN 主催「第 5 回 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」

○日時：平成 20 年 11 月 4 日（火） 8:45 - 12:00

○会場：中国・北京 清華大学（中国・北京） ※第 4 回 APHW 国際会議の特別セッションとして開催

○主催：Asian River Restoration Network (ARRN), China River Restoration Network (CRRN)、
日本河川・流域再生ネットワーク（財団法人リバーフロント整備センター）

○URL：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/966.html>

(その他の河川再生に関する主なイベント)

■ きれいな水と美しい緑を取りもどす全国大会

○日時：2008 年 11 月 6 日（木）

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/955.html>

■ 国際舟運シンポジウム 舟運と都市・地域再生

○日時：2008 年 11 月 7 日（金）

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/956.html>

■ 自然再生フォーラム in アザメ ～アザメから自然再生を考える～

○日時：2008 年 11 月 8 日（土）～9 日（日）

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/973.html>

■ 江戸東京観光舟運シンポジウム

○日時：2008 年 11 月 8 日（土） 13:00～17:30

<http://www.a-rr.net/jp/event/01/972.html>

■ 第 5 回柿田川シンポジウム『柿田川、人と自然のかかわり』

○日時：2008 年 11 月 8 日（土） 13:00～16:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/965.html>

■ 明日の地球を考えよう～丸の内で“わ”の気づき

○日時：2008 年 11 月 9 日（日）

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/971.html>

■ 国際フォーラム 世界の都市はかわる 川の再生と洪水・生きもの・やすらぎ

○日時：2008 年 11 月 13 日（木） 13:00～17:30

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/918.html>

■ 第 126 回河川文化を語る会『水質ワースト 1 から「遊べる川」へ

○日時：2008 年 11 月 26 日（水） 19:00～21:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/935.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ 河川景観デザイナー「河川景観の形成と保全の考え方」の解説と実践(2008. 7)

- ・ 編集：『河川景観の形成と保全の考え方』検討委員会
- ・ 出版社：（財）リバーフロント整備センター
- ・ 発行年月：2008 年 7 月
- ・ 価格：4,001 円（税込）
- ・ ISBN：978-4-947726-34-6



本書は、河川景観の形成・保全に関する調査や計画の流れ、設計・整備・維持管理等を行うために必要な視点、考える手順、整理すべき情報、活用すべき手法等が分かりやすく解説されています。

■ 川の環境目標を考えるー川の健康診断（2008. 7 発刊）

- ・ 監修：中村太士・辻本哲郎・天野邦彦
- ・ 出版社：技報堂出版
- ・ 発行年月：2008 年 7 月
- ・ 価格：2,940 円（税込）
- ・ ISBN：978-4-7655-3431-4



本書は、河川環境について、人の健康診断の類推表現を用いながら、その目標を具体的に提示し、今後の河川の保全・再生のあり方について判りやすく解説しています。

事務局からのお知らせ

JRRN が設立されて 2 年を迎えました。JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

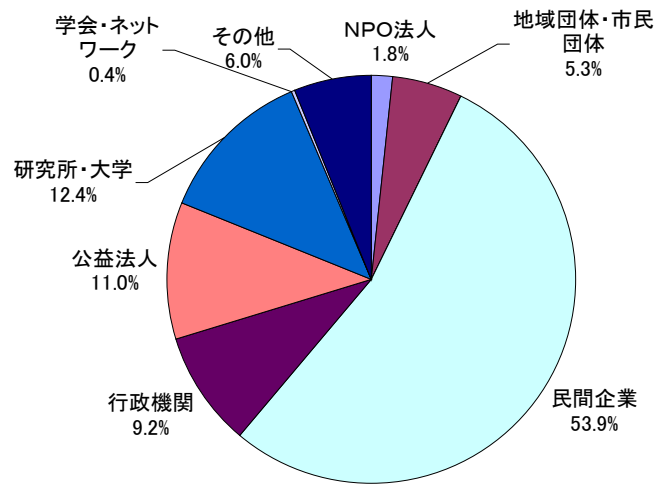
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 10 月 30 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@arr-net.jp

URL: <http://www.arr-net.jp/>

■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.arr-net.jp/info/member.html>